

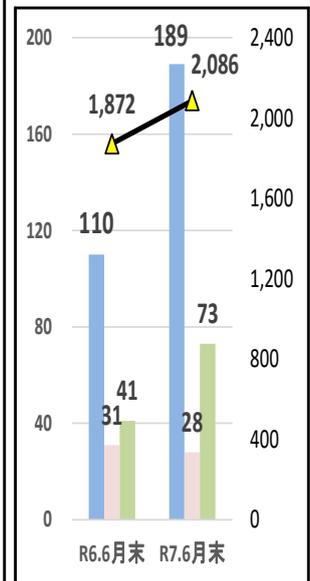
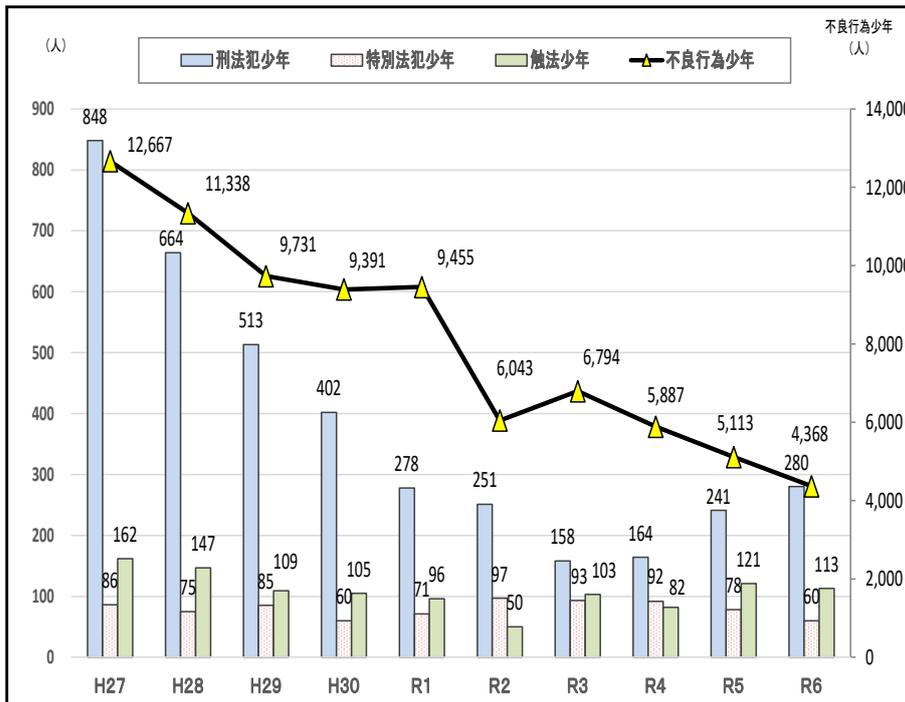
少年非行の概況 (令和7年6月末暫定値)



茨城県警察本部
人身安全少年課

1 少年非行の概況

(1) 少年非行の情勢



- ・刑法犯少年…犯罪行為をした14歳以上20歳未満の者のうち、刑法犯で検挙された少年
- ・特別法犯少年…犯罪行為をした14歳以上20歳未満の者のうち、特別法犯で検挙された少年
- ・触法少年…刑罰法令に触れる行為をした14歳未満の少年
- ・不良行為少年…深夜はいかい、喫煙、飲酒、粗暴行為等で補導された少年

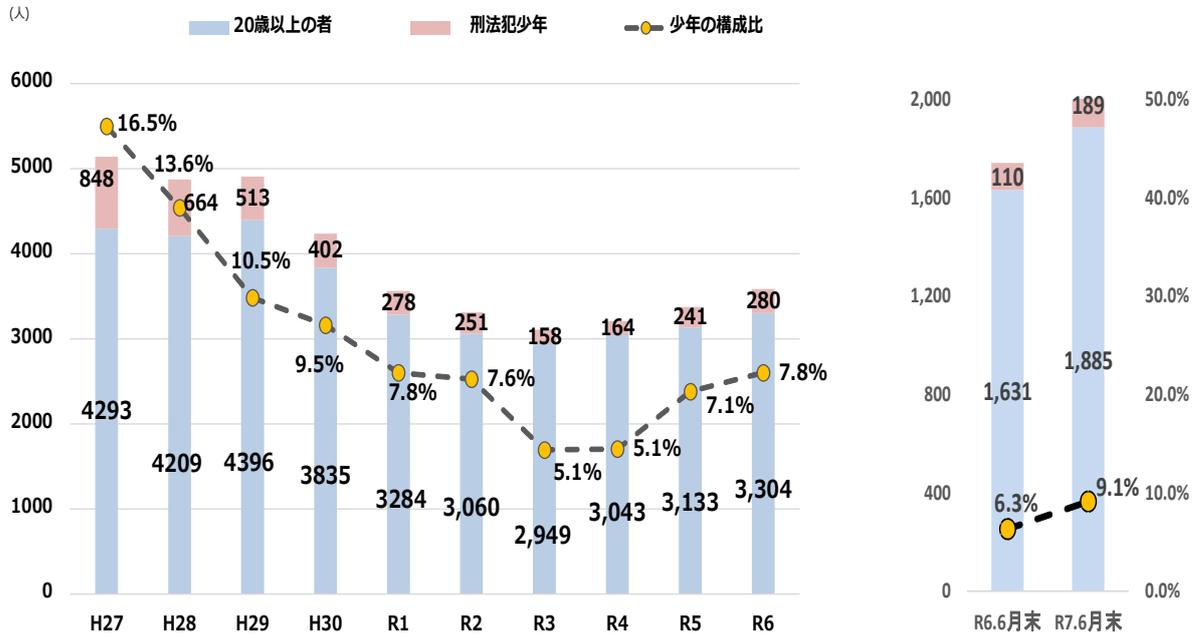
○ 刑法犯少年は令和4年以降増加に転じました。令和7年6月末現在は189人で、前年同期と比べて79人(+71.8%)増加しました。

○ 令和7年6月末現在、特別法犯少年は28人で前年同期と比べて3人(-9.7%)減少し、触法少年は73人で前年同期と比べて32人(+78.0%)増加しました。

○ 不良行為少年は減少傾向にありますが、令和7年6月末現在は2,086人で前年同期と比べて214人(+11.4%)増加しました。

(2) 刑法犯少年

ア 刑法犯総検挙人員に占める刑法犯少年の割合（構成比）



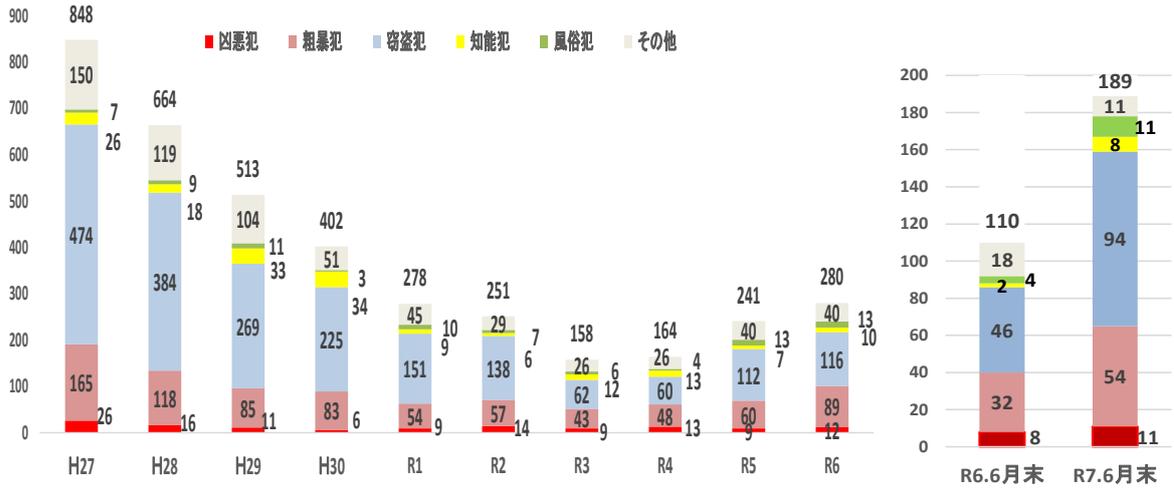
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R6.6月末	R7.6月末	増減数	
														増減数
総検挙人員	5,141	4,873	4,909	4,237	3,562	3,311	3,107	3,207	3,374	3,584	1,741	2,074	333	19.1%
20歳以上の者	4,293	4,209	4,396	3,835	3,284	3,060	2,949	3,043	3,133	3,304	1,631	1,885	254	15.6%
刑法犯少年	848	664	513	402	278	251	158	164	241	280	110	189	79	71.8%
構成比	16.5%	13.6%	10.5%	9.5%	7.8%	7.6%	5.1%	5.1%	7.1%	7.8%	6.3%	9.1%	2.8P	-
20歳以上の者の人口	2,412,268	2,406,074	2,401,376	2,396,035	2,395,747	2,390,775	2,386,731	2,393,183	2,390,799	2,385,983	2,385,983	2,379,614	-6,369	-0.3%
人口比	1.8	1.7	1.8	1.6	1.4	1.3	1.2	1.3	1.3	1.4	0.7	0.8	0.1P	-
少年人口	170,269	169,764	168,631	165,797	165,431	161,005	157,520	154,960	153,658	149,842	152,137	149,842	-2,295	-1.5%
人口比	5.0	3.9	3.0	2.4	1.7	1.6	1.0	1.1	1.6	1.9	0.7	1.3	0.6P	-

注1:表中の少年人口は、茨城県政策企画部統計課の推計人口(14~19歳)(各年1月1日時点の人口を使用)

注2:人口比は、同年齢層人口1,000人当たりにおける検挙人員の割合。

令和7年6月末現在、刑法犯総検挙人員2,074人に占める刑法犯少年189人の割合（構成比）については9.1%でした。

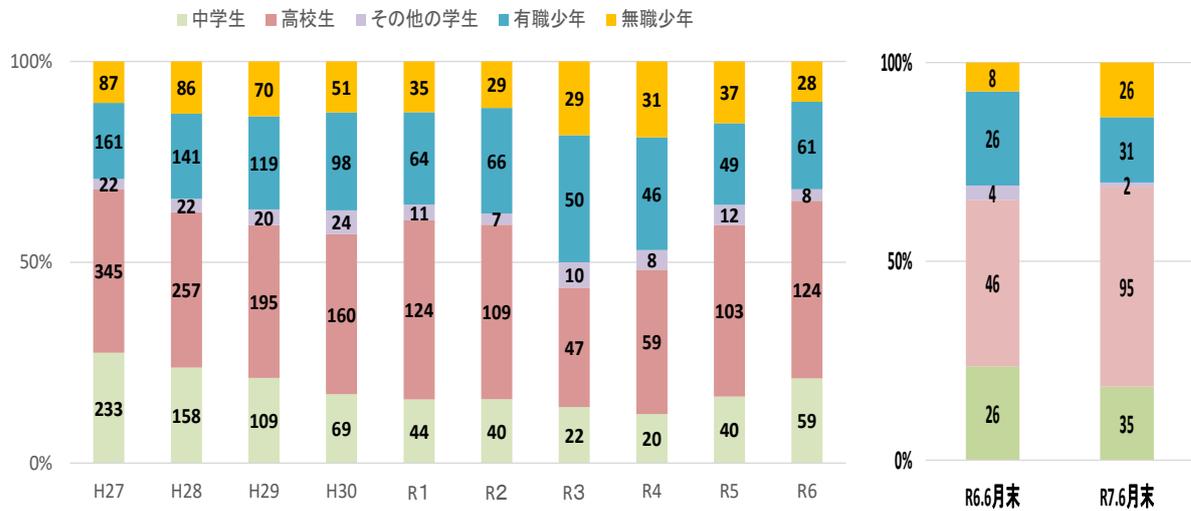
イ 罪種別検挙状況



- ・凶悪犯…殺人、強盗、不同意性交等、放火等
- ・粗暴犯…傷害、暴行、恐喝、脅迫等
- ・窃盗犯…万引き、自転車盗、侵入窃盗等
- ・知能犯…ニセ電話詐欺、横領等
- ・風俗犯…公然わいせつ、賭博等
- ・その他…占有離脱物横領、公務執行妨害等

令和7年6月末現在、窃盗犯の検挙人数が94人で前年同期と比べて48人（+104.3%）と最も増加しました。

ウ 学職別検挙状況

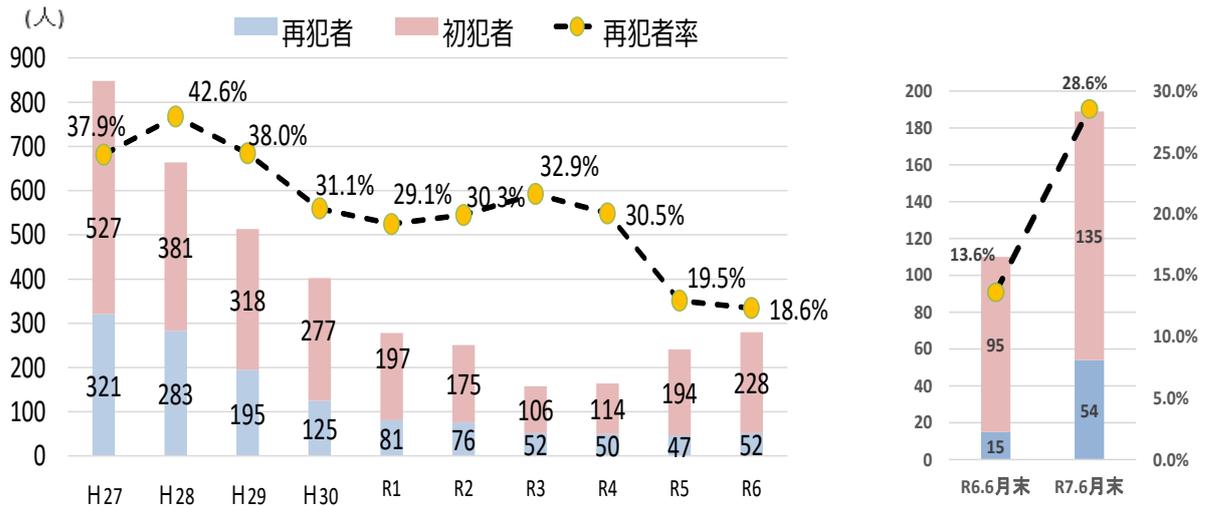


注1：「その他の学生」とは、大学生及び専修学校生等

注2：グラフラベルは検挙人数を表示

令和7年6月末現在、刑法犯少年の検挙人員189人のうち、高校生が95人（50.3%）と最も多く、次いで中学生が35人（18.5%）でした。
前年同期と比べて、高校生の割合が49人（+106.5%）と最も増加しました。

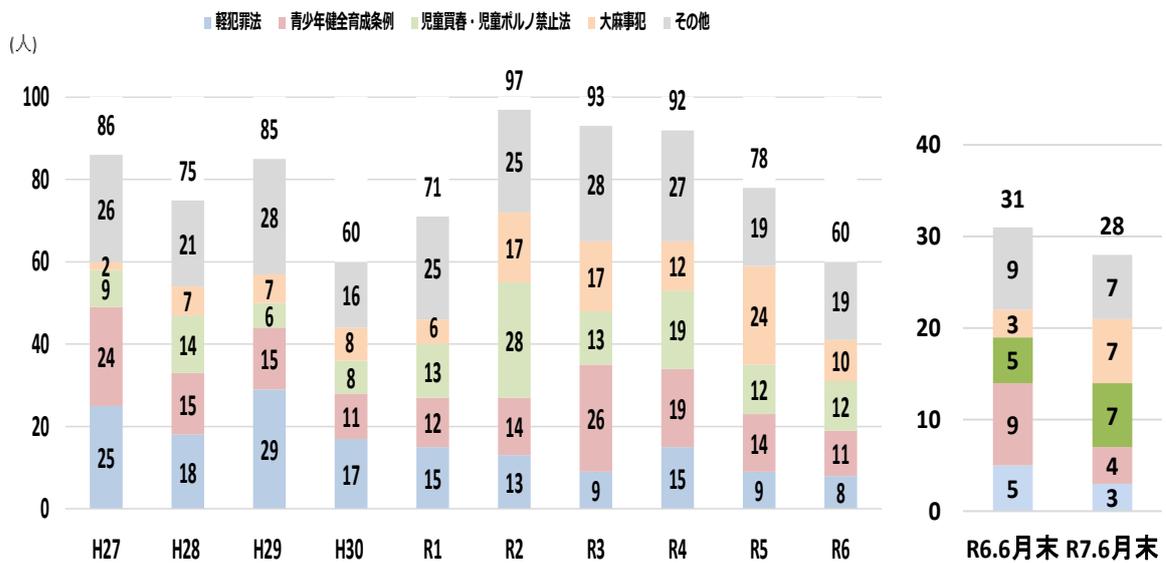
エ 再犯者率



令和7年6月末現在、再犯者の割合（再犯者率）は28.6%で、前年同期と比べて15.0ポイント増加しました。

(3) 特別法犯少年

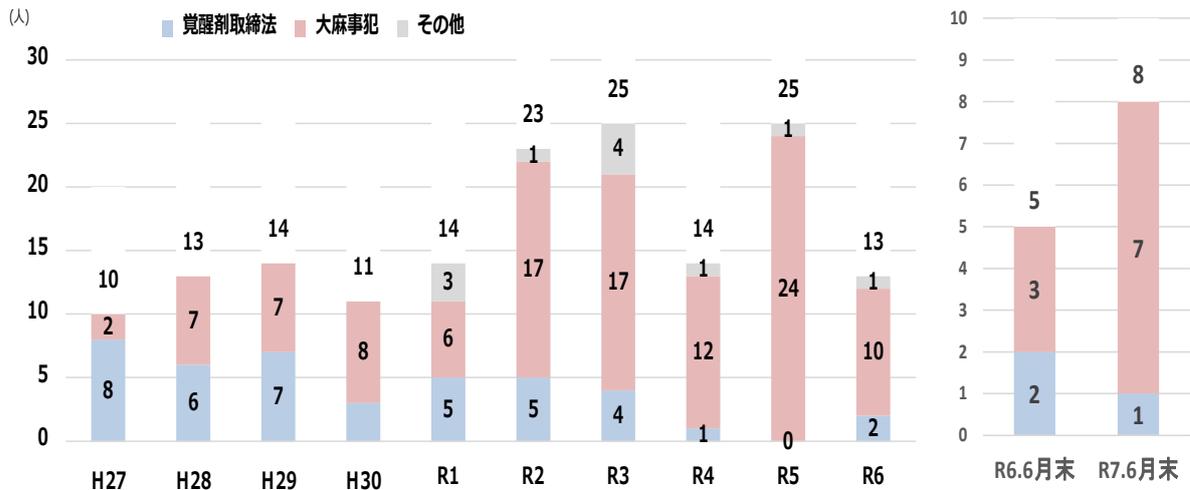
ア 法令別検挙状況



令和7年6月末現在、特別法犯少年の検挙人員は28人であり、前年同期と比べて3人(-9.7%)減少しました。

法令別では、児童買春・児童ポルノ禁止法、大麻事犯での検挙がそれぞれ7人で、前年同期よりも増加しています。

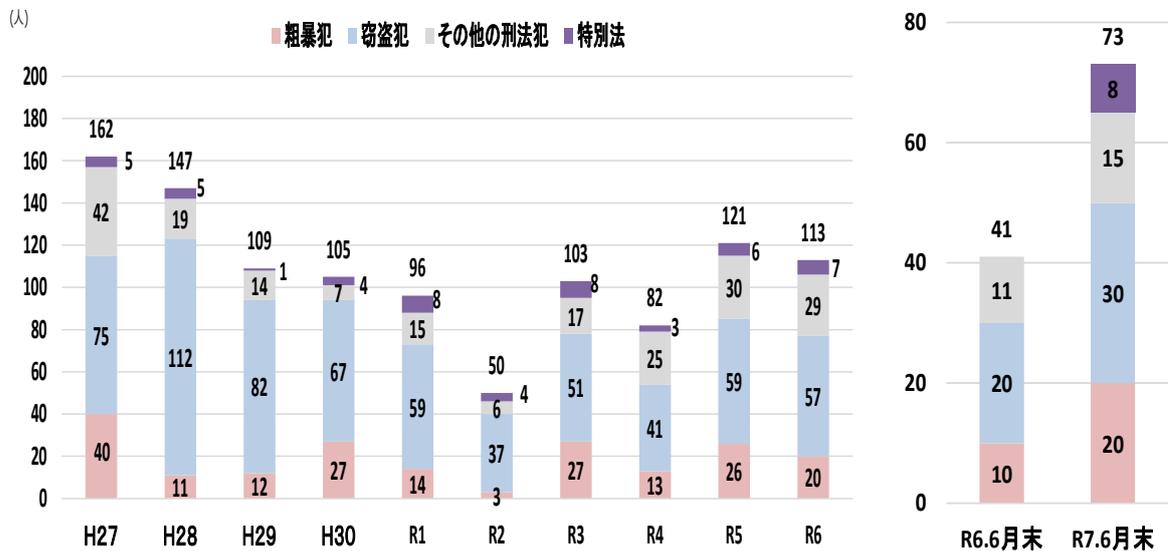
イ 薬物事犯



※ その他・・・麻薬特例法、麻薬取締法

令和7年6月末現在、薬物事犯の検挙人員は8人で、そのうち大麻事犯が7人、覚醒剤取締法違反が1人であり、前年同期と比べて3人（+30.0%）増加しました。

(4) 触法少年

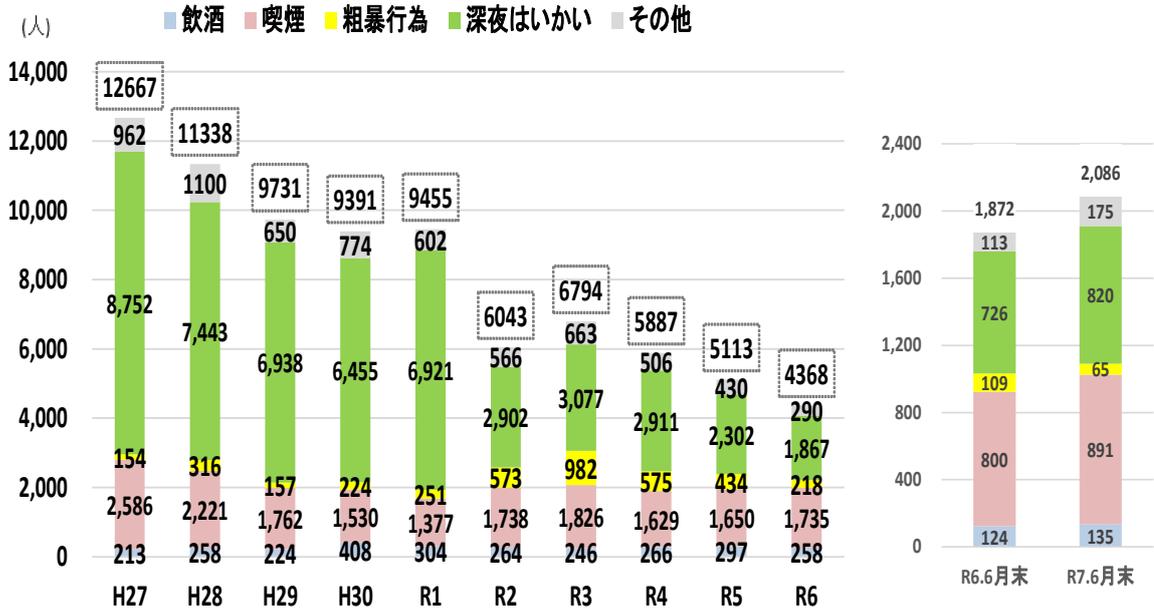


※その他の刑法犯・・・凶悪犯、知能犯、風俗犯、刑法犯少年その他(器物損壊等)

令和7年6月末現在、触法少年の補導人員は73人で、前年同期と比べて32人（+78.0%）増加しました。

補導人数のうち、窃盗犯が30人で前年同期と比べて10人増加し、全体の約4割を占めました。

(5) 不良行為少年

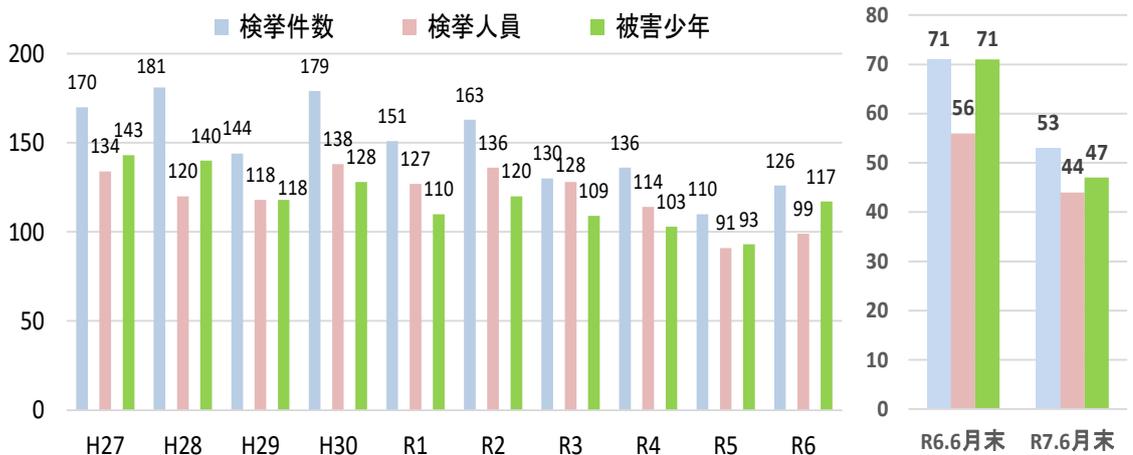


※ その他…家出、怠学等の不良行為

令和7年6月末現在、不良行為少年の総数は2,086人で、前年同期に比べて214人(+11.4%)増加しました。
 行為種別では、喫煙が891人と最も多く、次いで深夜はいかいが820人で、この2行為が全体の約8割を占めました。

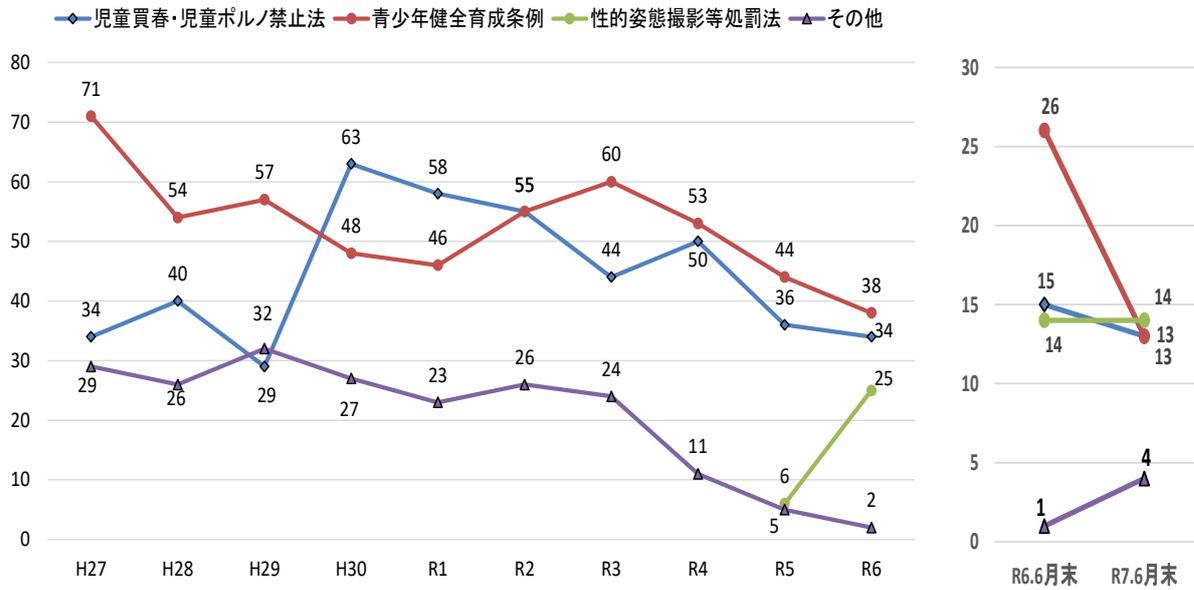
2 福祉犯（少年の福祉を害する犯罪）

(1) 検挙件数・検挙人員・被害少年



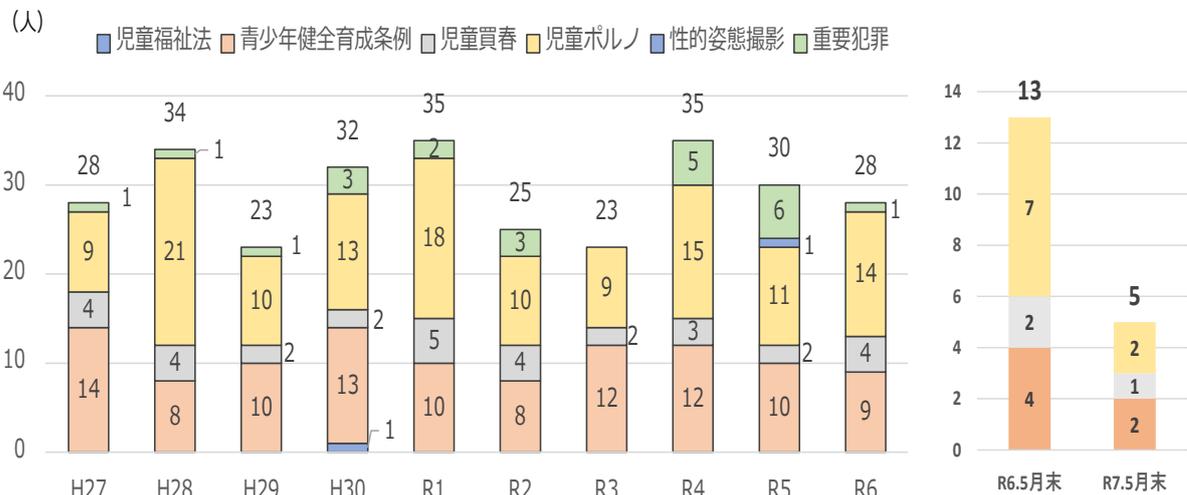
令和7年6月末現在、福祉犯の検挙件数は53件で、前年同期と比べて18件(-25.4%)減少しました。検挙人員は44人で、前年同期と比べて12人(-21.4%)減少しました。被害少年は47人で、前年同期と比べて24人(-33.8%)減少しました。

(2) 法令別福祉犯検挙人員推移



令和7年6月末現在、法令別の福祉犯検挙人員は、性的姿態撮影等処罰法が14人と最も多く、前年同期と同数でした。次いで児童買春・児童ポルノ禁止法が13人（前年同期比2人減少、-13.3%）、青少年健全育成条例が13人（前年同期比13人減少、-50.0%）でした。

(3) SNSに起因する事犯の被害状況



- ・ SNSとは、本統計では、通信ゲームを含み、届出のある出会い系サイトを除いたものをいう。
- ・ SNSに起因する事犯とは、SNSを通じて面識のない被疑者と被害児童が知り合い、交際や知人関係等に発展する前に被害にあった事犯をいう。
- ・ 重要犯罪等とは、殺人、強盗、放火、不同意性交等、略取誘拐、人身売買、不同意わいせつ(旧強制わいせつ)、逮捕監禁をいう。

令和7年6月末現在、SNSに起因する事犯の被害児童は合計5人（青少年健全育成条例2人、児童ポルノ2人、児童買春1人）で、前年同期と比べて12人（-71.0%）減少しました。